



【第一章 オムショ入り】

後輩に嵌められた。

大麻の売人に仕立て上げられ、まんまとパクられた。
取り調べでも下手をこいた。

嘘でも「単純所持」を認めて

反省しているフリだけでもすれば、
初犯で執行猶予がつくはずだった。

裁判官の判決は、禁固3年。

執行猶予無し。

入所先は、オムツ刑務所とする。

フルぶってタトゥーを入れていたことも

裁判官の心象を悪くしたらしい。

単純所持なら1年半が妥当らしいので

俺は売人だと思われたようだ。





気をつけ！

朝のオジッコー！

オムツの中で……さんはいッ！



オムツを自分で履いて、その中で

オジッコー！

オムツの中で出せないやつはメシ抜きだ！

朝から、看守の檄(ゲキ)が飛ぶ。

俺たち囚人は、鉄格子の前で両手を頭の上で組み
オシッコをオムツの中でしななければならない。

オムツが黄色くシミにならないければ、朝メシは抜きだ。
昼メシも無い。

タメシまでに出さなければ、タメシも抜き。

タメシの代わりに、水だけは飲み放題。

地下の鉄格子の中でやることもなく、
仕方なしに水を飲む奴がほとんど。

そして翌朝オムツの中で出せれば
晴れてうぐいでのメシにありつける。

食わないか、食うためにオムツに慣れるか。
永遠に2択を迫り続けられる。

どうした？
囚人335号！
オムツを履け！



それとも履かせて欲しいか？

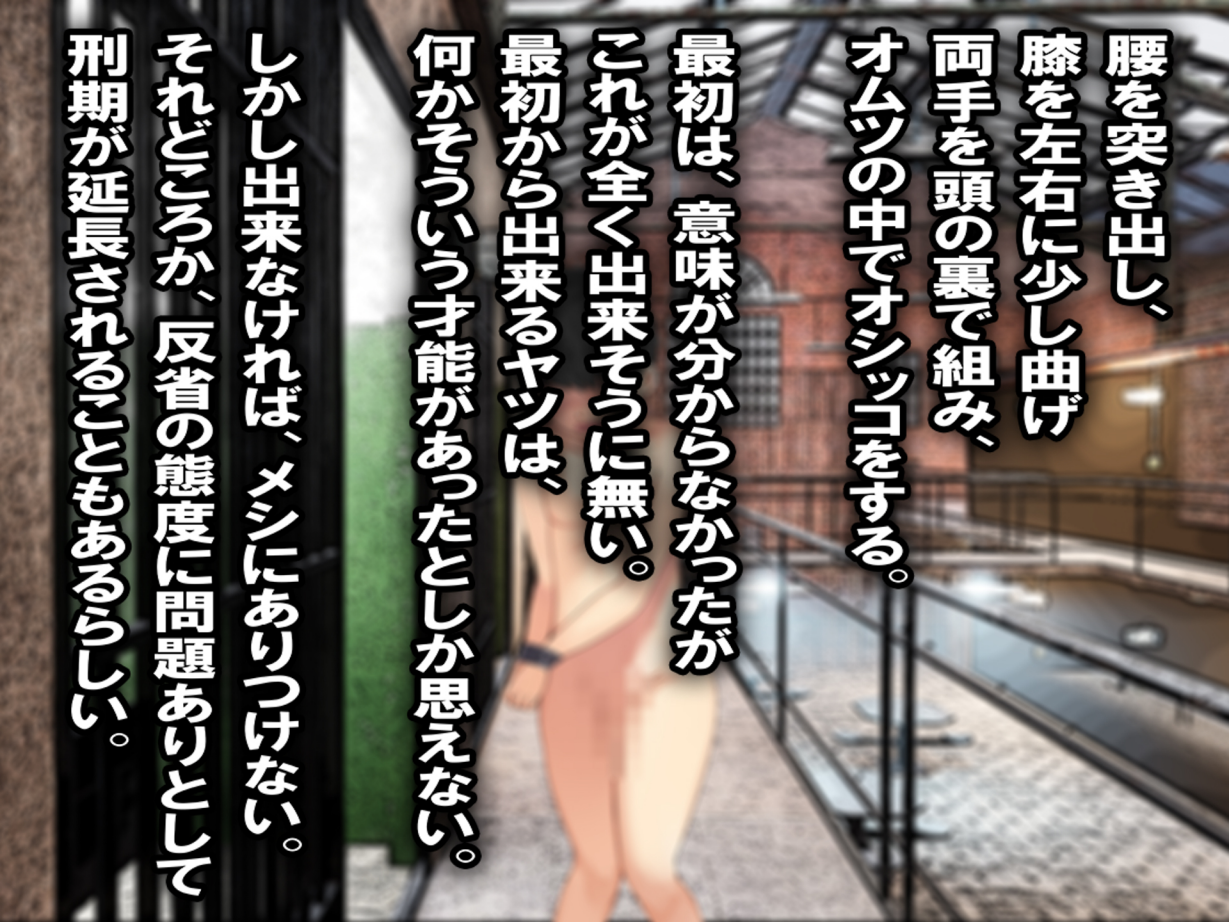
また、スタンガンで失神したいのか？

さっさと履け！……このクズ！……！！

次に私たちの手を煩わせたら
逆包茎手術室行きだぞ！
包茎がご希望か？



嫌ならさっさとオムツを履け！
オムツを履いて、中腰！
何度も言わせるな！！！！

A person wearing a red one-piece swimsuit is walking away from the camera on a paved path. In the background, there is a swimming pool with a black metal railing. The scene is outdoors, and the lighting suggests it might be late afternoon or early morning.

腰を突き出し、
膝を左右に少し曲げ
両手を頭の裏で組み、
オムツの中でオシッコをする。

最初は、意味が分からなかったが
これが全く出来そうに無い。

最初から出来るヤツは、
何かそういう才能があったとは思えない。

しかし出来なければ、メシにありつけない。
それどころか、反省の態度に問題ありとして
刑期が延長されることもあるらしい。

どうしてもオムツを履かないのか？
なら、それで良い。

フルチンのままオシッコしてみろ！



お前みたいなクズは、立ちションとか
毎日当たり前にしてたんだろ？
同じようにやってみろ！

看守は腰のスタンガンに手をかけている。
そして昨日同様にオムツを履かない俺の
アナルにスタンガンを押し付ける気だ。

俺が自分から「履く」まで何回でも。
何日でも。



どうした？

アナルに電気はもう嫌か？
それとも、病みつきか？



アナルにスタンガン押し付けられただけで
ビビって漏らした男がワルぶるな。

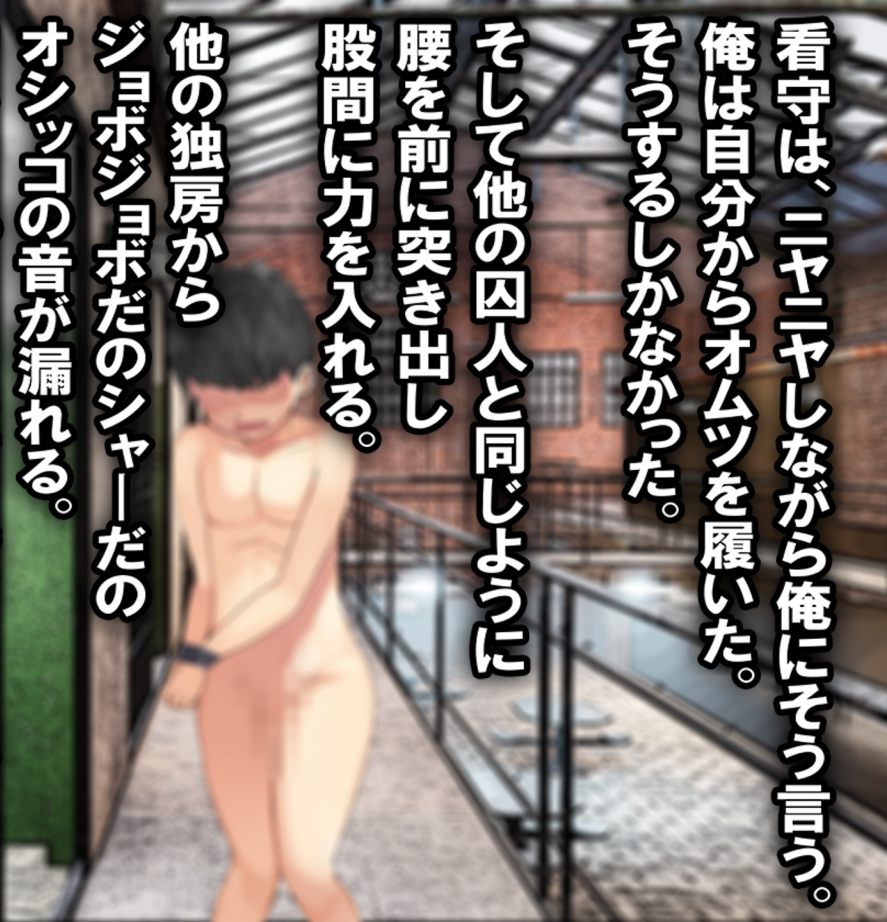
お前は、子供以下だ。

看守は、ニヤニヤしながら俺にそう言う。
俺は自分からオムツを履いた。
そうするしかなかった。

そして他の囚人と同じように
腰を前に突き出し
股間に力を入れる。

他の独房から
ジョボジョボだのシャーだの
オシッコの音が漏れる。
匂いもこっちまで立ち込めてきた。

しかし、俺だけは、どうしても
オムツの中に出せなかった。



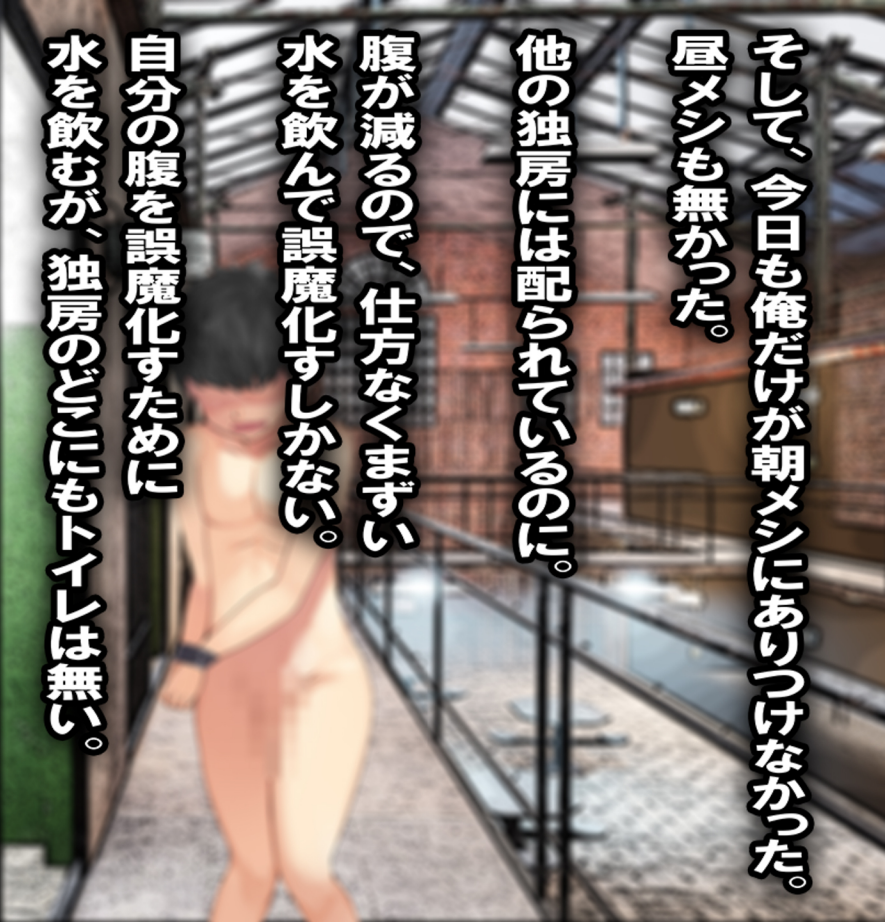
そして、今日も俺だけが朝メシにありつけなかった。
昼メシも無かった。

他の独房には配られているのに。

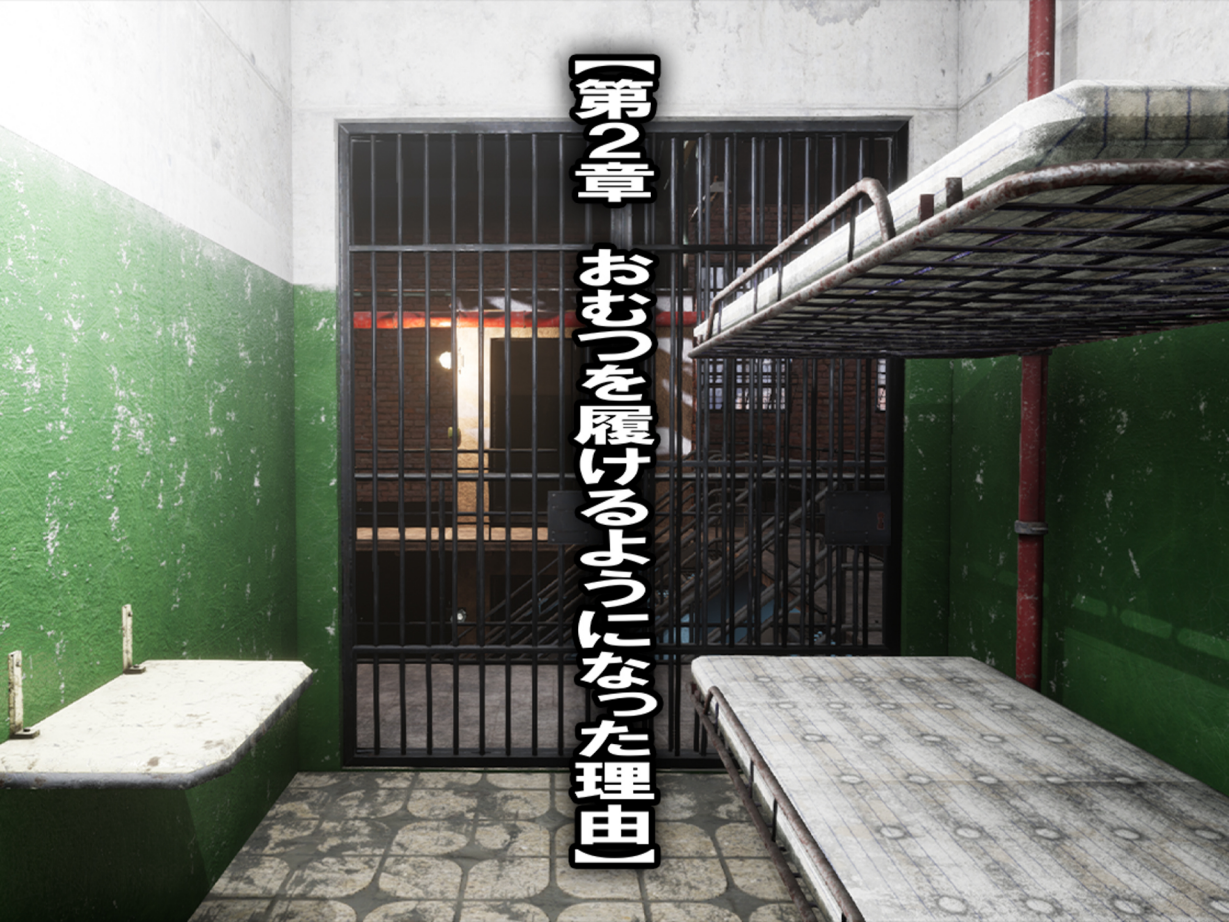
腹が減るので、仕方なくまずい
水を飲んで誤魔化すしかない。

自分の腹を誤魔化すために
水を飲むが、独房のどこにもトイレは無い。

仕方がないので、俺はオムツに向けて
立ちションベンをした。
そうするしか無かった。



【第2章 おむつを履けるようになった理由】



おい！囚人335番！
貴様、昨晚、オムツを履かずに
オシッコをしたな！
罰だ！床に伏せろ！



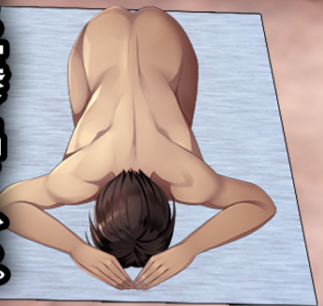
両手を頭の前で揃えて！！！！
土下座だよ！土下座！！！！
オムツは履くな！！！！

俺は、監獄から引き摺り出され、
全裸の、土下座ポーズで
「固まる床」に押し付けられた。

瞬間接着剤が塗られた床に

無理矢理固定されて

床板ごとオムシヨ(オムツ刑務所)から運び出される。



おでこが床から外せないの、
外は見えない。



視界に入る光は、牢屋外で
あることを示していた。
音でここがどこか分かる。

俺が通っていた高校だ。

逮捕されるまで通っていた高校だ。
同級生・下級生・そのまたさらに下の
下級生たちの
バカにする声が聞こえる。

が、睨みたくても顔が上げられない。
多分、高校の入口に置かれた。